

# レジリエントICTシンポジウム2023

被災地で起こったICTに係る重大な課題となった事象を時系列で示す

## 1. 津波直後

- ①通信インフラの喪失、電源の喪失→外部との情報収集発信、住民への情報提供ができなくなった。
- ②庁舎被災→住民台帳等基本となるデータ、システムが喪失した。

## 2. 避難所開設時(被災後数時間～数か月)

- ①最初に求められたのは安否情報だが、誰がどこに避難しているか等の安否・避難情報が収集提供できなかった。
- ②避難所に情報提供のためのシステムがなかった。→避難者に役立つ情報の収集提供が紙ベース。

## 3. 生活再建対応期間(被災後1週間後～)

- ①罹災証明書発送等、多種多様で大量の被災者支援業務が発生
- ②被災者の所在・支援ニーズの把握の遅れ→被災者支援業務用システムの必要性

# レジリエントICTシンポジウム2023

## 1. 課題の解決状況

- ①可搬型基地局の開発、低軌道衛星のサービス開始など、通信インフラは改善されている。
- ②公共施設などでの太陽光発電装置の導入により電源が確保されてきている。
- ③情報システムの標準化法により、住民基本台帳システムなど主要な情報システムがガバメントクラウドへ移行することになる。このため、耐災害性は著しく向上することになる。
- ④避難所でのマイナンバーカードを利用した登録システムの開発や内閣府が提供するクラウド型被災者支援システムにより、避難者の情報がより確実に収集できる可能性、被災者支援業務の迅速化の可能性が高まった。

## 2. 今後の課題

- ①避難所での情報提供→被災者が必要とする情報を収集・配信するシステムの開発
- ②自治体とガバメントクラウドを接続する通信インフラの多重化・耐災害性の向上
- ③開発された技術を自治体がより使い易くなる制度の創設